

まえがき i

I 論理的原子論——「ないもの」と実在

第1章 前史——『数学の諸原理』の存在論……………4

- 1.1 関係の実在性をめぐる論争 4
- 1.2 『数学の諸原理』の意味論と存在論 10
- 1.3 『数学の諸原理』の存在論の問題点 24

第2章 「不完全記号」の学説……………45

- 2.1 記述理論 45
- 2.2 無クラス理論とタイプ理論 52
- 2.3 多項関係理論 59
- 2.4 『外界の知識』以降の不完全記号の学説 70
- 2.5 「不完全記号」概念にまつわる注意点 86

第3章 論理的原子論の体系……………108

- 3.1 実在の秩序 109
- 3.2 「ないもの」の秩序とその構成 121
- 3.3 不完全記号の学説と哲学の意味 133

II 哲学的方法論としての「分析の方法」

第4章 基礎づけ主義的解釈とその批判……………141

- 4.1 基礎づけ主義的解釈 141
- 4.2 基礎づけ主義的解釈の認識論的困難 151
- 4.3 意味論的還元主義としてのセンスデータ論とその批判 161
- 4.4 基礎づけ主義的解釈とテキストとの食い違い 170
- 4.5 基礎づけ主義的解釈による言語論に対する疑問 179

第5章 「分析の方法」と認識論的批判への応答……………185

- 5.1 「分析の方法」とは何か 185
- 5.2 外界問題と「分析の方法」 203
- 5.3 「論理的に完全な言語」とは何か 226
- 5.4 センスデータ論に対する認識論的批判への応答 230

第6章 感覚・知覚・思考の理論……………239

- 6.1 「分析の方法」をめぐる困難 239
- 6.2 面識概念と多項関係理論の再考 242
- 6.3 感覚と知覚の理論 248
- 6.4 概念的思考の形成と不完全記号の学説 261
- 6.5 言語・意味に関わる批判への応答 268

III 外界問題と二つのセンスデータ論

第7章 代表象的センスデータ論……………280

- 7.1 「相反する現れ」という問題 280
- 7.2 代表象説的解決 292
- 7.3 「物質について」と代表象説の困難 303
- 7.4 「新しい代表象説」の可能性 322

第8章 構成的センスデータ論……………337

- 8.1 解決されるべき二つの問題 337
- 8.2 日常的事物の構成 340
- 8.3 物理的対象の論理的構成 359
- 8.4 二つの構成の関係 369
- 8.5 知覚の因果説との対決 377
- 8.6 構成的センスデータ論とコミュニケーションの理論 399

